

2012 年度 学部 FD 活動報告書

目次

1. 2012 年度 FD 研修(作業手順など)	2
2. 平成 24 年度 授業評価(表)	3
3. グループ編成表	4
4. 2012 年度 FD 研修会報告書(A～J 班)	5

明治薬科大学
FD 委員会

2012年度 FD研修

FD実施委員会

2012.10.8

研修の主旨:

FD研修会ではここ4年間、「教材作成」「模擬講義のピアレビュー」「新規国家試験の薬学実践問題(複合問題)を模した問題の作成」「**実際の講義のピアレビュー**」を行い、教員個々の授業の方法・内容の改善を図ってきました。特に、昨年の「実際の講義のピアレビュー」では、個々の講義の特徴、優れた点、改善点など多くのことを学び、またグループ討論では普段余り話す機会も少ない教員同士が教育論について意見交換できたことは大変有意義でありました。本年度も本学の薬学教育をより一層の改善する目的で、昨年と同様「実際の講義のピアレビュー」を実施することにしました。

作業手順:

1. 講義担当の先生はFD委員会で決めました。後期授業のある教授の先生にお願いしました。グループのメンバーは昨年と基本同じです。
講義担当の先生は、グループのメンバーに聴講してもよい日時(11月1日～21日の最低3回)を提示する。
2. 講義担当以外のメンバーは、11月21日までに講義を少なくとも1回(30分～80分)聴講し、評価表を**12月8日(土)まで**にまとめ役の先生に提出する。
3. まとめ役の先生は、評価表をまとめ、グループ内で会合をもち、討論して、その内容を含めたレポート(Wordで)を**1月21日(月)まで**に 講義担当の先生とFD実施委員長 両者に提出する。
4. 講義担当の先生は、講義中特に留意した点、苦勞した点等、また評価表に基づき、来年度に向けて授業改善に参考になった点などを書き(Word、A4、1枚、1000文字程度)、**2月29日(水)まで**にFD実施委員長に提出する。

これらの評価表とレポートは、教育・研究・大学運営の目的のみで使用し、データは匿名で扱われます。

注:「まとめ役の先生の講義」が「聴講する講義」とバッティングするときは、まとめ役を変更することがあります。同様に「メンバーの先生の講義」が「聴講する講義」とバッティングするときは、まとめ役に申し出て、会合のみの出席でかまいません。

まとめ役の作業:

- ① 個々の先生から提出された評価表の項目1～12の平均点を算出し、自由記述の部分を個人が特定できないように配慮し、まとめる。
- ② グループ内の会合をアレンジし、司会を務め、提出用レポートを作成する。

注:評価表とまとめたレポートは、評価者の氏名が特定できないように注意する。

平成 24 年度 授業評価

FD 委員会

授業担当者 (_____ 先生) 授業科目名 (_____)

(1 2 3 4 6) 学年 (A B C) 組

授業日 平成 24 年 _____ 月 _____ 日 (I II III IV V) 時限目

評価項目に対して、該当する番号に○をマークして下さい。

(1) 全くそう思わない (2) そう思わない (3) どちらでもない (4) そう思う (5) 強くそう思う
該当しない場合は (*) をマークして下さい(平均点に入れない)。

評価項目	評価
1. 授業内容がシラバスに沿っている。	(1) (2) (3) (4) (5)
2. 教科書を指定している場合、適切に使用している。	(1) (2) (3) (4) (5) (*)
3. 教科書以外の教育媒体を適切に使用している。	(1) (2) (3) (4) (5) (*)
4. 話は聞き取りやすい。	(1) (2) (3) (4) (5)
5. 進行の早さは適切である。	(1) (2) (3) (4) (5)
6. 興味を持たせるような工夫がある。	(1) (2) (3) (4) (5)
7. 学生の質問・発言等があった場合、適切に対応している。	(1) (2) (3) (4) (5) (*)
8. 学生の理解度を確認して授業を進めている。	(1) (2) (3) (4) (5)
9. 他の授業科目との関連についてふれている。	(1) (2) (3) (4) (5)
10. 私語や不適切な行動があった場合、適切に対応している。	(1) (2) (3) (4) (5) (*)
11. 講義の準備が十分ある。	(1) (2) (3) (4) (5)
12. 総合的にみて、わかりやすい授業である。	(1) (2) (3) (4) (5)

優れている点について記入して下さい。

改善を要する点について記入して下さい。

自分の授業にも取り入れたい点について記入して下さい。

グループ編成表

2012.後期

FD 研修会グループ表

FD 委員会 2012.10.08

グループ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
まとめ役	池田玲子	日野文男	上村 尚	打波 守	高橋邦夫	越前宏俊	西川朱實	石井文由	兔川忠靖	石井一行
講義担当	熊澤美裕紀	加賀谷肇	古澤康秀	伊東明彦	川北晃司	町田いづみ	野口 保	中館和彦	阿刀田英子	庄司 優
	斎藤直樹	服部豊示	古源 寛	本島清人	長浜正巳	佐藤準一	高波利克	赤沢 学	石橋賢一	高橋晴美
	岡田嘉仁	吉田久博	菅野敦之	大石一彦	遠藤一司	長岡博人	櫻庭 均	川崎知己	北原嘉泰	小山清隆
	下川健一	竹内典子	片山昌勅	高村 彰	杉田 隆	溝口則幸	渡邊 誠	松本邦洋	岸野吏志	江口直光
	石橋芳雄	足立 茂	花田和彦	日堂 修	林 弘美	佐野和美	池上洋二	山田俊二	向日良夫	野地匡裕
	小松楠緒子	植沢芳広	宮沢伸介	松井勝彦	赤埴順子	鈴木俊宏	三田充男	東 恭一郎	天竺桂弘子	田中靖子
	飯田克巳	高取和彦	菱沼 滋	杉山重夫	小笠原裕樹	樋口和宏	山崎紀子	馬場正樹	横田明美	小川竜一
	石田洋一	大山悦子	高取 薫	大野恵子	浦辺宏明	林 賢	小川泰弘	野澤玲子	鈴木 正	岸田 敦
	斎坂ゆかり	木村真也	山田聖子	小関珠美	高橋雅弘	月村考宏	庄野あい子	新井恵子	田湯正法	小林健一

(横屋正志:留学中)

敬称略

修正:2012,10,25

FD 委員会

川崎知己(委員長)、阿刀田英子、伊東明彦、庄司 優、竹内典子、日野文男、小松楠緒子
草地 聡、武井美樹

2012 年度 FD 研修会報告書 (A～J 班) ^{a)}

1) 授業評価結果表

	項目 \ 班	A	B	C	D	E	F	G ^{b)}	H	I	J
1	授業内容がシラバスに沿っている。	4.8	3.8	4.8	4.3	4.3	4.6	4.3	4.2	4.8	4.6
2	教科書を指定している場合、適切に使用している。	4.1 *1	4.0 *6	3.7 *2	3.3 *5	*	4.3	*	4.4	*	4.1
3	教科書以外の教育媒体を適切に使用している。	4.8	3.8 *1	4.6 *1	4.4	4.7	4.4	4.3	3.4	4.8	4.5
4	話は聞き取りやすい。	4.6	4.2	4.0	4.9	2.8	4.5	4.7	3.8	4.4	3.9
5	進行の速さは適切である。	4.5	4.2	4.1	4.5	3.4	4.4	4.4	4.1	4.8	3.9
6	興味を持たせるような工夫がある。	4.8	4.2	3.3	4.4	3.6	4.5	4.7	3.4	4.6	3.8
7	学生の質問・発言等があった場合、適切に対応している。	*	4.0 *4	3.5 *6	3.0 *6	*	4.0 *7	4.0 *	*	*	3.0 *9
8	学生の理解度を確認して授業を進めている。	4.3	4.0	3.4	4.0	2.7	3.6	4.4	3.2	4.4	2.8
9	他の授業科目との関連についてふれている。	4.1	3.3	2.9	4.1	2.6	3.8	4.3	3.4	4.2	2.8
10	私語や不適切な行動があった場合、適切に対応している。	3.5 *3	3.2 *2	2.6 *1	4.5 *4	2.1	3.5 *6	3.9	2.3 *6	*	3.5 *6
11	講義の準備が十分ある。	4.6	4.0	4.6	4.6	4.8	4.6	4.4	3.9	4.8	4.8
12	総合的にみて、わかりやすい授業である。	4.6	4.2	3.5	4.6	3.8	4.6	4.8	3.8	4.6	4.0

次の(1)～(5)の評価の平均値を示した。(1)全くそう思わない(2)そう思わない(3)どちらでもない

(4)そう思う(5)強くそう思う (*)項目が該当しない場合(*の後ろの数字は人数) 各班10名参加

a) 1～10班を順不同でA～J班と書き替えた。 b) 2つの異なった科目の授業評価ではあるが、まとめた。

2) 各班の授業評価に関するコメント

今年度の報告書では、教員名や科目名は「〇〇」で置き換えたが、コメントの内容がわからなくなる語句は「〇〇」にせずそのまま残した。A～J班のコメントは授業結果表のA～J班に対応する。

A 班

1. 評価項目について

今回の授業内容（〇〇学）は、メンバー全員がほぼ完璧（1項目を除き平均4以上で、しかも11項目中7項目が4.5以上）ともいえる評価であった。講義中の私語に対する注意、すなわち項目10だけは他の項目に比べ低評価の平均3.5となったが、おそらく後方で聴講した先生の評価であり、意見交換会でも取り上げられたが、授業開始のところで学生に軽い質問を投げかけて、講義に導入し教室全体を落ち着かせて静かにさせたと述べられた先生は高い評価を与えていた。一方、こうした項目が今回の講義中に確認できなかった先生もいて評価が分かれた。また、項目8と10は意見交換会でも具体的に指摘された。総合的に評価は非常に高かった。

(1) 優れている点

〇〇先生の講義は活発でエネルギッシュであり、「いいですか」「わかった？」と、繰り返し学生の反応を確認していた（複数の評価者）。また、同様な意見では、重要なポイントは2度繰り返す、あるいは「こちらを向いて下さい」と言って動作を示すことによってわかりやすく伝えようとしていたなどの意見も寄せられた。

〇〇をよく学んでいない1年生にも理解できる、わかりやすいと感じられた。伝える内容が精選されていて、伝わりやすく、授業開始時に、前の授業との関連付けをきちんと学生に説明されていた。さらに授業開始のところで学生に軽い質問を投げかけて講義に導入し教室全体を落ち着かせ、開始後3～5分で完全に前を向かせていた（複数の評価者）。眠そうになる時間帯では、講義に少しテンポをつけ、声を大きくしていた。また、授業中にも要所所で学生に復習的な質問を投げかけ、常に学生の集中力を維持する工夫がなされていた。と講義中の導入から講義途中でのしかけに高い評価が与えられていた。

教科書の図を上手に使いながら、手書きのコメントや説明を書き加えるなど、の工夫が見られ、さらに学生がノートに書く時間を適度に与え、それを確認しながら進めていることなども意見としてあった。また、間合いの取り方が絶妙で、パワーポイントを利用した講義にもかかわらず、ノートをとる時間も十分にとっているので、講義が半分過ぎても寝ている学生わずかであった。さらに体験していそうな具体的現象から想起させてポイントを強調するなど工夫が見られた。

(2) 改善を要する点

飲み物、携帯、遅刻途中入室・一時退出などが散見された。これらは講演者が発見できた場合にはやはり注意すべきであるとの意見が寄せられた。また、話のテンポが同じであり、最初から最後までハイテンションで授業が進められているので、学生の集中力が続かない。したがって講義の合間に息抜きを考えるなどの工夫があるのでとの意見が出された。ある評価者の近くにいた学生が教科書への書き込みでなく、一生懸命図を写していたので教科書の図を引用したスライドに、そのページ数を入れて置くとより親切なのではないかとの意見

もあった。また、教科書にない絵（図）を、受講学生はスマホで撮っていたので、当日授業に使う図（キャビネットファイル・学生共通にある）を事前に印刷してくるよう指示をした方がよいと思われた。（なお、〇〇先生から、この指示は学生に通知してあるとのことでした。）さらに、他の関連科目との絡みは要所で確認しているが、もうすこし身近な疾病との絡みを入れるともっとわかりやすいのでは？また、授業内容が難しいなどの感想も寄せられた。

なお、意見交換会では2枚のスクリーンに同じ内容を投影する必要があるか？との問いかけに賛否両論の意見が寄せられた。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

〇〇先生の講義は評価表ならびに意見交換会でもメンバー全員が手本にすべき内容であることを認めていたが、個々人の具体的な点としては以下に列挙する。

- ・学生のところまで行ってマイクを向けること。
- ・資料提示での「器官の動き」の動画（アニメーションを含む）の使用はやはり分かり易く印象的である。
- ・授業に用いているパワーポイント（以下、PPT）が全て完成版とせず、所々に板書形式を折り込んでいた。この方法は自分でノートを取り、授業の集中力、理解度を向上することが出来ると思ったので今後参考にしたい。
- ・文字がほとんど無く図を中心としたスライドを用意して、その図中に重要な項目を書き込ませていく点は取り入れたい。
- ・自分の体やその一部を使いながらや、具体的な例を示すことで、体の細部を想像しやすい工夫がある。
- ・覚えてほしい用語を大きくスライドに書き込むなど、重要な点を何度も繰り返している。
- ・エデュキャンパス（？）上でのPPTを使っただけの授業だが、使用するスライド枚数も少なく適切であった。
- ・PPT上への簡単で効果的な書き込みをしている（複数）ので、その方法を習いたい。
- ・スクリーンの前での説明で、PPTでの講義で散見される「話し手が居ない」ということはなく、黒板を使った講義（対面教育）のように先生の存在感が感じられた（複数）
- ・（〇〇先生の講義を見習って）講義中、話している（講義している）教師の存在感をもっと出したい。
- ・シラバス、関連講義との調整が必要だが、（自分の）講義の内容量をもっと絞れるのではという気がしてきた。
- ・目の前の先生が話している講義を聴く意識が高まるので、PPT使っても書くとき以外はスクリーンの前で話す。
- ・教科書やノート等に目を落としている学生に、要所で「いい？こっち見て。」と声をかけて、指し示しつつ「この〇〇は××。これは絶対覚えて。いい？」のように、端的明瞭な強調をする。
- ・PPTに書いてあっても、再度強調して大きく描画、書き込みで確認する。
- ・（自分の）担当している授業では教科書がないので、学生のためには教科書があった方が勉強しやすい（と感じた）。
- ・（〇〇先生のをみて自分の）スライドをもっと見やすくした方がいい（と反省した）。

B 班

1. 評価項目について

(1) 優れている点

- ・スライドのハンドアウトはポイントだけ渡し、スライドに集中させて「一緒に考える」様に強く導いている。
- ・PPT のアニメーションを効果的に使用しており、話に加え画像からも、授業に引き込む工夫がなされていた。
- ・学生達の生の声を聴く姿勢があり、そうした授業ができるテーマであることが羨ましい。
- ・学生に質問しその場でしっかりと考えさせている。
- ・具体的な例や体験談を話した後に、学生に質問を投げかけ、考える間をとりながら授業をすすめ、一方的に受身にならないよう配慮されている。また、学生がわかりやすい言葉を用いて、授業が行われていた。
- ・歯切れのよいしゃべり方である。緩和ケア、がん告知という切実な課題をテンポよいしゃべり口で進めていく講義は、魅力的であった。
- ・ご本人のご経験が盛り込まれている為大変説得力がある。真剣に聞いている学生が多い。
- ・医療人として自覚を高めるために大変良い講義内容であり、構成もしっかりしている。
- ・医療現場に即した内容であった。
- ・学生に発言させて、理解度を確認している。

(2) 改善を要する点

- ・特になし
- ・黒板を使用するとさらに学生にどこがポイントであるかを示せると感じた。
- ・学生を少し静かにさせてから、講義を開始した方がよい。飲み物や携帯をしまわせておいた方がよい。(講義を聴いている人は飲んでいない。飲みながら受講している人は、真面目に聴いていない。)
- ・問題を出し、質問し、学生の回答に対し、切り返した応答をするという、受講者参加型講義はよかったが、数多くの人に対し、順番に当てていくより、もう少し一人にじっくり聞く方がよいかもしいかなと思った。(マイクの使い方のせいか、学生の声がよく聞こえなかった)。「こうやって、デブになっていくのよね。」は、ちょっと危険かもしれない(太った学生がいるかもしれないので)。
- ・学生自身が体系的な勉強をするために、複数の参考書をシラバス等で紹介してはいかがでしょうか？

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- ・知識というより、スキルを教える授業なので、通常とは異なる苦労があると思う。知識を伝える授業にも反映できないか検討していきたい。
- ・学生同士で相談する時間を設けている。
- ・少しでも受講者参加型講義ができるようにしたい。
- ・現在学んでいることがどのように役立つのかを出来るだけ具体的に示すことで、学生が理解

(イメージ) しやすいように、そして興味を持てるように授業を進めたい。

- ・基礎と応用がバランスよく混ざっており、3年生の授業に相応しい内容だと感じ、大変参考になった。
- ・学生が考える習慣を身につけるため、問題提起の方法(〇〇先生の場合は直接マイクを渡して問いかける手法。考える対象の重要度。)を技術的に向上させたい。
- ・改善を要する点について記入して下さい。
- ・さらに、学生に興味を持たせるように工夫したい。

C班

1. 評価項目について

(1) 優れている点

- ・基礎〇〇学から〇〇学への応用について示している。
- ・シラバスを表示して、当該講義の目的を示している点。
- ・講義の初めに前回の復習を簡単に行っているのので、話の流れがつかみやすい。(3名)
- ・その日の内容を練習問題で確認させることは授業の理解及び教員側での理解度の確認のためにも良いことである。
- ・授業プリントの準備及びそのスライドに関しまして十分な準備がなされていました。
- ・パワーポイントを用いて、教育媒体を有効に利用していた。
- ・授業を進めるにあたって、“この点は大丈夫ですか?”と尋ねながら進めていた。
- ・高校、他教科での修得度の確認
- ・教壇を移動し、手で指し示し強弱をつけながらの講義
- ・学生各自が机上でネットを介してスライドを閲覧することができるため、勉強しやすい。

(2) 改善を要する点

- ・授業開始から約20分間、学生の私語が止まず、教室の後の席では教員の話が聞き取れない程である。眠っている者や携帯電話使用者も多い。(5名)
- ・講義内容は評価者にとって面白かったが、学生は恐らく理解できていないと思われる。
- ・資料をネットで閲覧できることは良い反面、ある意味授業を聞かなくても試験前に勉強できると勘違いする学生がいるのではないだろうか(実際後方の学生はあまり真剣に聞いていなかった)。
- ・薬学部に入學してきている最近の学生にとって〇〇学は最も理解しがたい分野であろう(最近の学生の学力のかなりの低下(特に明薬の学生は)と高校時代に物理をとっている学生の少なさから)。そのため、どの程度前期での〇〇学や〇〇学の授業内容を学生が本当に身につけているのかわからないが、学生のリアクションをみると内容が難解のように感じた。
- ・ウィ〇〇の変位則などの専門用語がいくつか出てきたが、もう少し解説が欲しい。
- ・声も少し聞き取りにくいので、マイクの音量をもっと上げた方がよい。
- ・学生の授業に対する興味が、余りにも無いように感じられる。
- ・〇〇先生は、〇〇学にどうにか繋がるように授業を進めたいとのことだったが、学生に先生の気持ちが通じていないようであった。

- ・パワーポイントの字が小さく、また、色も薄いので見えにくい。
- ・パワーポイントを使っていたが、レジュメは渡しているのだろうか？また、レーザープリンターを使えば、少しは学生の理解度は増すかと思う。
- ・授業の終わりに、簡易的な練習問題につままして用意されており、それにより出席を確認するとのことでしたが、列ごとに前から配っていたために、代筆を行っていました。また、恐らくプリントが配られることをメールにて学生同士で伝え合っており、プリント配布後に入室する学生が4-5名おりました。手渡しする必要があると思われます。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- ・その日の授業内容の確認問題をやらせることは、理解につながると感じた。
- ・資料をWebに載せるなど、講義にWebを取り入れている。
- ・スクリーンを2枚用いて、両者を使いながらの説明
- ・講義の初めに前回の復習を簡単に行う。
- ・演習を中心に授業は行われていたが、自分の授業では○○○演習以外演習はなく、演習を○○○学でも取り入れたら良いかもしれない（但し、時間の余裕はないが・・・）。
- ・○○先生は学生に“今の点大丈夫ですか”と質問しながら授業を進められていた。自分の授業でも学生がどこまで理解しているか確認しながら進める必要があると感じた。
- ・練習問題の準備とその出席の確認は重要のようでは是非取り入れたいと思います。

2. その他

- ・評価結果(別紙)の評価項目とそれぞれの評価および改善を要する点等について話し合った。
- ・12の評価項目のうち、平均4点以上の評価が5項目、3点台が5項目で、残り2項目は2点台であった。2点の評価者がいたのは4項目あった。
- ・最も評価の低かった「評価項目 10. 私語や不適切な行動に対して対応している」に関しては、「改善を要する点」でも評価者8人中5人が言及しているが、後の席の学生の不適切な行動ということもあり、授業担当者はそれほどとは認識していなかった。対処法としては、複数の提案がなされた。
- ・今回の授業評価について評価結果以外の意見を募ったところ、貴重な意見が多数だされた。
 - * 授業内容が高級すぎる。
 - * パワーポイントだとどうしても進度のはやくなるので、板書するとよい等。

D 班

1. 評価項目について

各評価項目の平均評価点数は大部分が高得点であった。次の3項目すなわち、「教科書を指定している場合、適切に使用している。」、「学生の質問・発言等があった場合、適切に対応している。」および「私語や不適切な行動があった場合、適切に対応している。」については、大多数の評価が、「* (該当しない)」または「3 (どちらでもない)」であった。したがって、聴講した講義時間内ではその項目を判断することが困難であったものと考え、その3項目を除外した平均値を求めると4.42となり、総合的に判断して大変すぐれた内容であったと評価された。

(1) 優れている点

多数の教員が、優れている点として板書の仕方が適切であることを挙げた。黒板の使い方と文字の見やすさが際だっていると多くの教員が感じ、意見交換の場でも感激したとの感想もあった。また、声の大きさと話す速度は適度で、板書と話し方および進行が高く評価された。身近な道具を利用することで印象が深くなり、独創的な工夫により理解をうながしていたことも高い評価を得た。遅刻や居眠りする学生がとても少なく、多くの学生がしっかりとノートをとっていた。黒板を撮影しようとする学生には、理由を説明して制止していた。また、中間テストを行うことで、学生の勉学意欲を高め、教員側が学生の理解度を把握している点も評価された。

(2) 改善を要する点

改善を要する点の項目に記載されてはいたが、改善というより聴講した教員の感想がいくつか記されていた。板書が多いことに対しては、学生は書くことに終始して考える余裕がないのではないかと、マルチメディアの利用は考慮しているかどうかなどの意見があった。また、ここで学んだ〇〇学が、将来創薬などでどのように応用されるのかが示されると、薬学における〇〇学の位置づけが適切に把握されて効果的であるとの意見もあった。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

優れている点と重複するが、板書を見習うべき項目とした意見が多数を占めた。また、配付プリントには、学生が〇〇式などを記入する場所が設けてあるといった工夫がみられ、効果的に使用されていたことにも複数のコメントが寄せられた。

2. 全体会議での意見交換

最初に、講義担当の〇〇先生から、評価結果をふまえて次のようなコメントがあった。

私は教職課程を経ているので、板書の仕方、ノートの取り方の指導法等についてトレーニングを受けてきた。板書をノートに書き写すことで、結果的に学生が教科書を作ることになっている。学生が写すことに専念しすぎないかとの疑問に対しては、自分自身の手で書く行為は学習効果を高めるために重要であることを強調された。そのため、板書の撮影は禁じている。現在使用している指定教科書はレベルが高いので、その中の練習問題を利用するように心がけている。プリントは、内容が黒板ではおさまらないような場合に配付し、書き込み用空欄を設けるなどの工夫をしている。通常私語はないが、あった場合は理由を言って注意し、学生に講義室外に出てもらうこともある。出席は、調査依頼があるのでとっているが出席による加点はしていない。質問への対応は、講義時間内では時間的に無理がある。〇〇学が参加型の講義でないことは致し方ない。2学年の必修科目である〇〇学も担当しているが、そこでは演習形式でより実践的な方法をとっている。

〇〇先生から、上級学年担当教員からの〇〇学への要望について問いかけがあった。これに対して、実験結果に基づいて検量線を作成することができないなど、基礎で学んできたことを応用的に身につけていくことが苦手な現状が示された。

さらに、今回の講義に関する意見および日頃から感じていることなどについて意見交換を行った。上記の他に様々な話題および意見が出されたので、以下に記載する。

学生の理解

〇〇先生は講義にあたり、はじめに新入生の学力を把握するために問題を出しているが、いわゆる中学生レベルの問題を答えられない学生が増加している。しかし、本学入学者は吸収力のある学生が多いとの感想も追加された。

〇〇式が多く、具体的イメージが湧きにくい内容の理解は難しいように思われる。その点では、〇〇学より〇〇学の方が学びやすいのかもしれない。

講義の進め方

学生目線の話し方ができるかどうかは、教員の年齢に影響を受ける傾向があるかもしれない。

クラス全体を集団としてとらえながら、個々の学生に注目するように心がけることが大切である。

動画やパワーポイント利用については、〇〇学の分野でのコンテンツがあるので効果的な利用法もあるだろう。しかし、概して印象が浅くなりがちである。その意味で、マグネットを付けた棒やペーパーといった身近な道具の利用がとても印象的で理解につながっていた。それぞれの科目の特徴を生かして、板書や電子媒体形式を使い分けるのが妥当であろう。

RE 制度

REは、学生に安易な単位取得の方法ととらえられてはいないだろうか。実際にRE履修者が、試験で再び不合格となる割合が高いのが現状である。再履修の方法を検討すべき時にきている。

講義アンケート

Web 利用では回答者が少ないので、講義の後にマークカードなどでアンケートをとらなければ回収率が向上しない。

3. おわりに

今回の講義を公開された〇〇先生は、教職課程で訓練を積み、その後さらに技能を磨いてきた経歴をお持ちである。その点が専門系の多くの教員との違いであり、板書、話し方、進行速度、学生への目の配り方などが高く評価され、われわれに強い印象を与える講義であった。教員が担当する科目の特徴により、授業で採用する方法は当然異なるが、各々の授業改善を図るうえでは共通して参考になることがとても多く有意義であった。講義主体の場合でも、学生への問いかけをたとえわずかでも行うことは、緊張感を高め、学生の思考・判断・表現の育成につながるとあらためて認識した。昨年度に続いてほぼ同じメンバーでのFDであったが、2年連続してきわめて高く評価された異なる分野の講義に接することができ意義深い研修となった。

E 班

1. 評価項目について

(1) 優れている点；講義の内容全般と進行方法について

・ 講義内容に関して

ガイドラインを用いてわかりやすくまとめられていた点、複数の資料や情報を利用して作成した講義資料がよくまとめられていた点、国家試験関連および講義のポイントが明確にされている点が主に挙げられる。

・ 進行方法に関して

映写スライドとハンドアウトについて；非常によくまとまっているが、スライドとハンドアウトが全く同じでない箇所に関しては、集中して講義を聞くことができることがよいとされる意見と、後から復習できないことに関しての問題が挙げられた。しかし、聞き逃したことは各自聞くべきだという意見でまとまった。今回、講義担当の先生もその点は考慮されていると考えられる。話し方について；必要以上に抑揚のない話し方なので、落ち着いて講義を聞くことができる。（逆の意見が改善を要する点にあり。）

(2) 改善を要する点；学生の授業態度、授業方法、スライド関係等について

- ・講義中に寝ている学生や身が入らず聞いていない学生は、講義を聞かなくてもテストは通るという安心感があるように見られる。落とされる危機感があれば聞くはずであるという意見でまとまった。
- ・授業方法に関して、先生の声が小さめであること、それにより聞き取りづらいこと、声のメリハリがないことが挙げられた。
- ・スライド1枚あたりの文字数が多いため、講義中は見づらいとの意見あり（学生の理解に消化不良が起こる可能性あり）。しかし、ハンドアウトに載っている箇所については、試験前に復習しやすいとの意見もあり。
- ・全体的に大切なところは、学生が各自メモをとるべき。しかし、学生にとってはどこが大切かわからない場合もあるので、講義の最初にアウトラインを話しておくとの意見あり。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

スライドの作成方法や講義進行のペース配分、話し方等について、評価者の意見はほぼ一致していた。

2. 評価項目および評価点のありかたについて

- ・評価項目について、「評価（3）どちらでもない」と「該当していない（*）」はどのように違うのか。（評価項目2.教科書の指定、評価項目7.学生からの質問に該当。）
- ・シラバスに載せられている教科書（今日の診療）は本当に教科書の位置づけなのか。
- ・「評価項目10.私語や不適切な行動が会った場合、適切に対応している」に関して、教室の設計自体が講義に不適切との意見あり。モニターより後ろは別世界になってしまう（寝ているか、勝手な行動しているか等）。今回の講義だけでなく、他の講義でも同様であるとの意見あり。
- ・〇〇学の講義の位置づけに関しても議論された。範囲も広く、総合的な科目なので、カリキュラムを作成する時に他の科目との調整がもっと必要なのではないか。（講義の問題点を挙げるよりカリキュラムの問題点をあらためて考えるべき。）クラスにより教員が異なり、教員数も多いので、もっと担当教員間で検討すべき。必ず教えなければならないポイントを教員間で共有すべきなど。

3. その他

- ・講義の位置づけが評価者に理解されていなかったこともあり、学生にも理解されていない可能性ある。カリキュラム全体のバランスにもよるが、〇〇学と〇〇演習は学年をまたがない

方が学生にとって理解しやすいと思われる。薬学部に対応した症例と薬の講義が望ましいが、現実的には難しいと思われる。

- ・各評価項目全般に対し、論議はあったものの評価者の意見はほぼ同じとなった（教員1人の講義に対し、異なる評価をする評価者はいなかった。）記しておきます。

F 班

1. 評価項目について

(1) 優れている点

- ・新聞等の記事を含め、新しい事項についても取り入れている。
- ・モーニングサービス（1時限目の講義に配慮）。
- ・〇〇スペシャル。
- ・スライド、プリント板書を適宜使い分けての形式
- ・実例を引きながら例示が適切に行われている。
- ・強調すべきところは声の調子を変えていた。学生の方を常に向いて話している。
- ・身近な話題をプラスしている。スーツネクタイ着用は紳士的で良い。
- ・ポイントを押さえた板書。上手い説明。メッセージ性のある講義。興味を持たせる工夫。
- ・問題を解きながら知識の整理確認。
- ・前回の授業内容に関する問題のプリント解説から授業をはじめるなど興味深い。

(2) 改善を要する点

- ・特になしが大多数。
- ・全員の注目は難しいが、後ろの座席では携帯いじり、寝ている等の学生。
- ・一番後ろからだの色つきチョークの文字は読みにくかった。
- ・スライドの文字が小さく感じた

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- ・社会性のある話題。
- ・講義内容のポイント理解度の設問形式による確認と解説。
- ・新しく的確な情報。
- ・興味を持たせるための工夫。
- ・単に講義内容の説明にとどまらず、幅広い視野経験に基づくメッセージ性に富んだ講義。
- ・前回の講義内容について学生の理解度を確認する問題の使用

2. グループ内会合の討論による問題点と今回のFD研修総評

授業について

〇〇先生の授業は、聴きやすく、授業のスピードも、時間配分も申し分なく、実物の例示や、確認試験の実施など至る所に工夫の様子がうかがえるなど、あらためて授業内容の素晴らしさを確認しました。

評価表について

項目2の教科書を指定していても、どれくらいの学生が持っているのか？プリントや過去問

等で十分に用が足りているのか？あるいは先輩からもらうのか？

項目 11 の講義の準備が十分あるとの設問には評価しにくい部分があるという意見がありました。何を持って十分とするの？

項目 8 についても授業中に問かけても答えない状況下で、問題を当てたり、確認問題を解かせたりすればよいのだが、授業時間内では実施する時間がなかなか作れないなどの意見が出されました。

FD 研修の総評

- ・ 毎回新しいことに触れることができるのでやるべき
- ・ 他の分野の先生の話の伺う事はためになる。自分にはまねできない事もあるが
- ・ 今の様なスケジュールでは参加できない事もあるので少し考えていただきたい。
- ・ もう少し簡単に講演会を聞くとかでよいのでは
- ・ 講義を聴く場合、座る場所によって（前席なのか後席なのかによって）評価が異なる項目もある（学生への注意等）ので一概にスコア化したもので物は言えないのでは

G 班

1. 評価項目について

(1) 優れている点

- ・ 実際の体験を具体例にとり入れながら、学生が興味を引くよう工夫していること。
- ・ 学生に質問をしながら、講義を進めていた。
- ・ 対話型の講義を意識していた。
- ・ 自らの経験をもとに実例をあげながら講義を進めていた。
- ・ 「講義中は帽子を脱ぐこと」など、細かく注意している。
- ・ 実体験を取り入れて講義をしているので、学生が講義に集中している。
- ・ 自分の体験談を交え、実務に則した話題を交えながら、学生が興味をもつように工夫されています。医療現場で役に立つ情報が満載で、本学の学生にとって有益な講義となっています。また先生の声にメリハリがあり、講義室を巡回しながら適宜学生に質問し、実際に解答させているので学生側も考えることになっています。
- ・ 医療現場での体験を含め、学生が将来医療現場で直面するであろう事象について、わかりやすく説明している。
- ・ 臨床例を織り交ぜながら、講義されている点。
- ・ 学生に、臨床事例において、自分ならどのように対応するかを考えさせながら、講義を展開している点。
- ・ 104 教室と大きな教室にもかかわらず、後部座席の学生にも意見を求めている点。
- ・ 実例（体験談）をあげている。話がとても聞き取りやすい。
- ・ 学生に質問をしながら講義している（時々、他の教科で習っているのも聞いている）。
- ・ 理解するために必要な、すでに学習している基礎知識を確認している。
- ・ ppt の操作がスムーズである。

(2) 改善を要する点

- ・特に見つからないが、最後にレジメのスライドでの講義の中で重要な点（伝えなかった点）を箇条書きでまとめるとより良かったかもしれない。
- ・質問に対する学生の解答が他の多くの学生に聞こえないまま、講義が進んでいました。教員が学生の解答を繰り返す方が望ましいと思います。また、改善しなくても良いとは思いますが、授業内容が科目名と乖離している気がします。〇〇学というより〇〇学の方がふさわしい内容となっています。
- ・学生自身が事例における対応を考える時間が少しあったほうが良いかと感じました。（1 コマでの時間配分もあると思いますが……）
 - ・スライドの字が読みにくい所があった。
 - ・写真ももう少し大きい方が見やすいと思う。
 - ・器具（〇〇セット）は写真だけでなく、実物を見せてもらえるとより理解しやすい（実習で使っていれば必要ありませんが）。
 - ・寝ている学生が多い。個人の責任なので対応に苦慮しますが。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- ・マイクを持って教室内を回り、学生に回答させる。
- ・学生に質問し、解答させつつ進行する講義。
- ・豊富な臨床事例により、臨場感のある講義を展開している点。
- ・学生の対応（反応）に応じて、講義を展開している点。
- ・PC から離れた位置での ppt 操作。

H 班

1. 評価項目について

(1) 優れている点

- ・サブスライドを有効、効果的に使用している。教科書を投影することで、ポイントだけが板書されて良い。様々な画像を展開することで、わかりやすい講義になっている。
- ・導入に、前回の授業の振り返りから入り、その日の授業にうまくつなげて流れを作っている。
- ・他の連携科目にも触れて見識広く講義をしている。
- ・その日の講義の要点をプリントの課題に盛り込み、理解をより深められるように工夫している。
- ・話のスピードが適切であり、聞き取りやすい。
- ・わかりやすい、学生に私語（雑談）をさせない話し方である。
- ・時間的制約から困難であるが、理解度を確かめるための方策が必要（定期試験終了後では遅い）。
- ・宿題をだしている。来週の予告が有り、予習するものに重要。

(2) 改善を要する点

- ・学生の理解度を確認して進められたほうが良い。学生に理解度を質問してからすすめてないと学生がとりのこされる。
- ・注意されないままおさまったが、始業 20 分ほど私語があった。私語への注意をどうする

か？

- ・教科書の説明だけになっている。式の展開への理解の問いかけ、具体例の演習部分があればと思います。
- ・声のトーンが一定であるため、抑揚をつけた方が良い。テンポがおそく気まじめすぎる。板書は途中で戻らず、常に左から右に書く方が良い。大事なポイントの強調（色をかえる）。ポインターの使用。
- ・イラスト、具体例の提示が稀。動画などのマルチメディアも欲しい。イントロとまとめがほしい。
- ・学生どうして議論する時間を途中にもうけたいが、時間が足りない。
- ・（教員の問題ではないが）教室の収容人員に対して、受講者が多すぎる（前の方は席が少し空いていたが、着席をあきらめて出て行ったものがある？）。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- ・サブスライドの有効利用。
- ・教科書のページの併写。 坦々とした授業進行。
- ・うまく板書や、書画カメラを使われていたのと、講義の展開が分かりやすかったので自分の講義でも取り入れたいと思った。
- ・資料提示装置を積極的に使い、図や写真を見せたい。
- ・板書の活用。宿題の導入（しかし他の科目での内職の対象になるので難しい）。
- ・講義時間に比して内容が多いが、消化不良を少なくするために、要点（特に、国家試験やCBTに重要な事項）をできるだけ詳しく講義する。

2. 討論のまとめ

- ・サブスライドに教科書を投影しつつ、板書を使う方法は、時間的にも能率がよく、学生と教員を結ぶツールの使い方として、班員一同感心させられた。
- ・話す速度については賛否両論あったが、成績が中程度の学生を目安とすれば、教員としてはややゆっくりと思われた本講義担当の先生の話し方は基準となるものであることを、確認しあうことができた。
- ・学生の理解度を確認する方法は難しいが、簡易的な方法として、表裏の色が異なる“ウチワ”を持たせておき、教員が聞いたときにあげさせ、前から見るとおおよそ確認できる方法、という建設的なものがあった。
- ・学生の私語については、教室に目いっぱい学生が着席している状態では、集中力の欠如が、私語につながっているとも考えられ、1クラスの人数や1コマの長さなどとも考えあわせていかなければならないと思われた。

I 班

1. 評価項目について

(1) 優れている点

- ・最新的话题を取り入れ、また様々な資料を使用するなど、教材の選択にも工夫が感じられ、学生の興味を引くのに良い。

- ・80分の講義が準備周到かつ無駄が無く、余裕をもって講義されている点が良い。
- ・板書が分かりやすく、一部に空欄を作り、説明しながら解答を提示していく方法が良い。
- ・学生に授業参加を促すための努力が非常によくなされていて、学生が主体的に考えることを中心にした授業が行われている。
- ・学生の感想文を提出させて、音読させ、皆に聞かせるとともに、さらに他の意見を聞いている点が良い。学生が自分自身の思考の中で考える機会を作ることは大切である。
- ・事前の課題に対して、全学生がその情報を共有し学生間で考察できる仕組みがなされている。一方的な講義でなく、対話型で、学生が講義に集中でき、また興味を高めることができる。

(2) 改善を要する点

- ・前半と後半の話の繋がりが分かりにくかった。唐突に話が変わって、両者がどう関連しているのか（あるいはまったく話題が変わっているのか）、説明が必要。
- ・せっかく素晴らしい授業でしたので、できればもっと学生に向かって訴えかけるような話し方があってもよかったかもしれない。
- ・1回目の板書は授業時間前から始めているので問題ないが、2回目の板書の時間が長いと感じた。プリントを用意して空欄を作り学生に書かせることも考えられる。
- ・話す速さが若干早めに感じた。声量は聞きやすい。
- ・他の科目との関連にふれるのは、なかなか難しい科目だが、その点はやむを得ない。
- ・講義に対する工夫、進行スピード、板書等のどれもが素晴らしい講義であり、改善を必要とする項目は見当たらない。
- ・少人数の講義と大人数の講義があり、それぞれの授業の形態があってよい。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- ・板書やスライドを使用する際に、空欄を作っておいて、そこがキーワードになり、解説の過程で正解を後から書きこむ手法。それによって大事な点が明瞭で、学生が復習しやすいと感じた。
- ・板書で行う部分と、スライド（or OHP）で行う部分が使い分けられるとよい。
- ・予告した上で、学生とのレスポンスの時間をとってから学生を指名し、感想文を音読させ、意見を求めるこの方法は、学生に持続的な緊張感を持たせるという点でも良い方法。
- ・学生のレポートを紹介して、他の学生に音読させ、コメントを求めるなど、レポート提出がより有意義になるための工夫。
- ・学生の数や講義内容によっては、学生参加の対話型授業は難しい場合がある。このような意見が出てくる背景はFDの班を構成する教員の立場の違いによるものである。従って、FDの趣旨からいえば、同じような立場の教員で班を構成することで、より現実的なことが話し合われることになり、実が多いと考えられる。一方、異なった種類の講義はあまり聞く機会が無いし、新鮮な刺激にもなるとの意見があった。

2. その他

- ・授業の評価とは直接関係ないがパワーポイント（PP）の使用について意見があった。PPの利点としては、大人数（300人程度、大講義室）に対する講義では必須で、事前にPPによるスライドのプリントを配り、書き込みをさせることで理解を深める等が考えられる。欠点としてはプリントをもらおうと一部の学生はそれで事足りると安心して、講義自体を聞かなくなる

こと、PPの講義が好きでない学生もいるといった点が挙げられた。現状としては、各教員が担当する授業の人数や内容が様々なので、その場に応じていろいろなパターンで講義をする多様性が望まれる。

J班

1. 評価項目について

(1) 優れている点

- ・講義資料がよくまとまっており、学生が講義に取り組みやすい工夫がなされている。
- ・パワーポイントによる画面提示と異なり、学生に配布される資料は穴埋め形式になっており、学習し易いと感じた。
- ・配布資料に、学生に記述を促す工夫がある。
- ・パワーポイント（スライド）に教科書のページが示してあり、時々教科書の図表についての説明がある。学生は必ず教科書を復習すると想像できる。
- ・パワーポイント・配布資料が適切かつ十分に活用されている。
- ・学生の私語に対する適切な注意。
- ・臨床経験に基づいた豊富な具体例が講義に盛り込まれている。
- ・多くの症例・実例を挙げている点は、とても理解しやすい。
- ・実例や社会的現象を挙げ理解促進を図っている。
- ・分野に精通しており、経験に裏打ちされていることがよく伝わってくる。

(2) 改善を要する点

- ・学生とのアイコンタクトがやや少ない。
- ・学生の方に視線を向ける頻度が少ないと感じた。
- ・講義中は、殆どスライドの方を向いていたので、一方的な印象をもちました。
- ・レーザーポインターで示すとき、前面の一画面しか示せない。
- ・講義対象の項目が豊富すぎるため、各項目の説明が表面的なように感じた。
- ・スライドの内容が細かすぎるように感じた。
- ・講義用のスライドは、写真や図を適宜入れたほうがよりわかりやすいと思います。
- ・盛り沢山の内容で消化不良をきたさないかどうか懸念される。
- ・プリントの記入欄が小さいように感じました。
- ・スライドの文字が小さくて見にくい。
- ・学生の記憶に残るような病院薬剤師業務で経験された実例やエピソードをもう少し紹介されるとさらによい講義になると感じました。
- ・たまには冗談を交えたりして、説明にメリハリをつけるとよいと思いました。
- ・講義が単調なりがちなので話し方に抑揚を持たせればよいのですが。
- ・後方では、声が聞き取りづらい。

(3) 自分の授業にも取り入れたい点

- ・分野が違うので同じようにはできませんが、講義への準備周到さを見習いたい。
- ・講義資料を適切に作成する。

- ・臨床現場での実例や、関連性を自身の講義にも取り入れたい。
- ・配布資料・講義用スライドは、現場の若い薬剤師にも役立つような多くの症例が紹介されており、工夫されていました。現状の情報を網羅し、学生に配信できるようにした。

以上